

社会科学習指導案

1. 日時・場所 令和元年12月6日(金) 5校時

2. 単元名 「行ってみよう 見てもよう 私たちの神奈川県
～箱根町の伝統工芸 寄木細工の魅力と未来～」
(全20時間 本時14時間目)



3. 単元目標

自分たちの住んでいる神奈川県の特徴ある地域の1つである箱根町の人々の生活や文化について、意欲的に調べようとする。また、調べた地域の特徴に立ち返りながら、地域の伝統を守り、寄木細工を継承する職人の努力や寄木細工の未来について考えを深めることができる。

4. 「ひびきあう三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」
手だて・・・子どもの願いや思いを見とった単元構想と授業づくり
中学年ブロックテーマ「追究する力、仲間と支え合う自分」
・自分の問題をとことん追究する姿 ・仲間と協働して追究する姿

(1) 児童の実態

<4年生の子どもたち>

クラスのために自分にできることをやりたい、考えたいと願い行動できる子が何名かいる。そのため4月当初からクラス遊びを企画したり、みんなに声をかけたりする姿が見られた。その一方で、その声に甘えてしまい、自分から行動せず受け身なコミュニケーションや自分勝手な行動を取る子どもも多くいた。そこで、係活動や学級目標に向けての活動などを通じて、関わり合うことの大切さ、自分が発信者になることの大切さについて考える機会をつくってきた。これまでの成果もあり現在では、自分からコミュニケーションを取ったり、クラスみんなに声をかけたり、提案するような子も増えてきている。例えば、給食の片付け方・落とし物・ごみの分別など、クラスの課題が見えるたびに、自分たちで課題について共有し、発信するような姿がある。このようなことをきっかけに、**仲間と協働的な追究をする素地ができてきている。**

学習面では、4月当初から問題に対して真面目に取り組む子が多くいた。与えられた課題に対しての取り組みも手順が分かれば、しっかりと解決することができる。しかし、学習の中で自ら問題を見だし、追究するような経験が少なく、教師から与えられるのを待つ傾向が強かった。この点について、繰り返し問いを見いだす経験をしてきたことで、**少しずつ問題を見だし追究していくイメージを持つことができるようになってきた。**ただ、学力的に厳しい子や不安傾向の子も多くおり、見いだした問題をとことん追究する前に、理解ができなかったり、あきらめてしまったりする場面も何度か見られるのが現状である。

<聴く・話すについての指導>

「聴く」という点についていえば、教師の話はある程度しっかり聴いているが、その反面友だちの発言への反応が薄い傾向があった。この原因は、学力的に理解できず反応できないことや他者の考えに興味を持とうとしない傾向が強かったことが挙げられる。そのため、クラスで取ったアンケートでも『友だち

は自分の話を聞いてくれるか?』の項目は大変低い傾向があった。このアンケート結果を踏まえて、子どもたちと話し合いの場を設定しながら、クラスの『聴くマナー』を作った。とりわけ、『反応』ということ 키워ドにあげながら、友だちの話に自分なりに反応することを大切にしてきた。**画一的に声を出すことが反応ではなく、うなづくことやメモすること・つぶやくこと・分からないと首をかしげることなど、聴き方の多様性を認めつつ、**良い反応を取り上げていくように指導してきた。以前の実態と比べれば成長はしてきているが、まだまだ指導の途中だと考えている。

話すという点では、発表に著しく苦手意識がある子が多い。4月当初の学習中の発表者数は一桁であった。しかし、学習中全員が発表する場面を意図的に作ったり、帰りの会の中に感想発表の時間を設けたりすることで、発表することへの自信が付いてきた子が多い。話すことへの自信を持ち、変わっていく子どもを取り上げて認めていく中で、一人またひとり不安傾向の強い子も含めて発表できるようになってきた。また、教師からのフィードバックとともに、子ども同士でお互いの成長を伝えあう場面も作るなど、相互で話すことへの自信を高めた子が多くいる。**現在は、発表の段階ではなく、話し合いの中で、賛成や反対意見をより積極的に言えることをねらって指導している。**まだまだ、話し合いの段階になると一部の子に限定される部分もあるが、その中でもペアやグループなどの学習方法を効果的に活用しながら、話し合いの場面における話す力も高めていきたい。また、話すことへの意欲の高い子にも、区切って話すこと・結論を先に言うこと・例示を挙げることなど、話し方のコツをスピーチ指導と関連しながら指導している。

<これまでの関わり合い・ひびき合い>

前期は、社会科の『ごみ』の学習で、子どもたちのひびき合いの生まれる活動を実践してきた。プラスチックのごみを食べたクジラの写真をきっかけに、『どうしてクジラがプラスチックを食べたのか?』という問いを追究する中で、海洋ごみやごみ全体の問題に目を向け、追究する学習を行った。この学習を通して、海洋ごみという世界的な問題を自分たちにできることから解決しようと、総合的な学習の時間に探究を続けている。この学習の中では、お互いの意見のずれを何度も取り上げてきた。例えば、『海洋ごみの問題を解決する手立てとして一番良い方法は何か?』『ごみ箱を作るべきか、もっと分別を意識して捨てるべきか?』など、自分たちの意見のずれを大切に話し合いをしていく中で、必然的に子ども同士が関わり合い、ひびき合っていく姿が見られた。

このように**問いを見だし、それを解決していく中で生まれた意見のずれを取り上げ、話し合っていくといった学習過程**を社会、総合、理科、国語などを中心に行ってきた。これにより、子ども同士の関わり合う力は少しずつ身に付いてきている。

(2) 単元と指導

<単元について>

子どもたちは、第3学年で、小田原市のまちの特色や土地の利用などを学習している。第4学年では前単元として『わたしたちの県』の学習を行ってきた。この『わたしたちの県』の学習では、神奈川県の市の位置を知るとともに、地形・土地利用・交通など、どのような特色が県全体にあるのかを学習してきた。

本単元では、前単元を踏まえて、県内の特色ある地域についてより深く学習していく。学習指導要領解説第4学年の目標及び内容(5)では、『(ア) 県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解すること。(イ) 特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え表現すること。』と書かれている。特色ある地域として、今回は箱根町、三浦市、相模原市、横浜市を取り上げて学習をしていく。とりわけ、**箱根町に焦点化し学習をしていくことで、自然や観光、歴史など様々なつながりの中で特色ある地域が形成されてきたことをより深く学んでいく。**

単元を組み立てていく際、箱根町の伝統工芸品である『寄木細工』を取り上げる。箱根町と隣の市に住む子どもたちにとって『寄木細工』は身近な存在である。しかし、身近だからこそ、その寄木細工に

についての知識はあまりなく、見たことはあっても、どうやって作られているのか、どうして箱根で作られるようになったのかといった疑問は自然と生まれやすいと考えた。そのような子どもたちの自然な問いを通じて、寄木細工の魅力やそれに関わる人々の願いについても触れていきたい。地域の特色というものを『もの』や『人』を通じて学んでいく中で、その地域の特色や魅力についてより考えていくことができる。また、その際、小田原市にも箱根町と同じ文化『寄木細工などの木工文化』が根付いており、改めて自分たちの市の魅力についても考えるきっかけにしていきたい。

今回、全ての地域を満遍なく扱うことよりも、1つの地域の特色にしぼってまずは取り上げていく中で、特色ある地域を見る時の見方や考え方の素地を養うことにつながっていくと考えている。その素地を大切に、他地域についても扱っていく。

<指導について>

単元の導入では、観光客数に注目しながら箱根町の魅力について、様々な視点で意見を共有していく。自然・歴史・建物・文化など、いくつもの魅力がある箱根町の中で、寄木細工について焦点化していく。おそらく子どもたちは、『寄木細工知っているよ。』『家にもあるよ。』と自信をもって話し始めるだろう。それをきっかけに、寄木細工を家から持ち寄る活動からこの学習をスタートしていく。持ち寄って特徴を出し合う中で、自然と『どうやって作っているのか?』『どうして箱根で作られているのか?』『作ってみたい。』といった疑問や願いが出てくるだろう。この疑問や願いを解決する中で、寄木職人の露木さんと出会っていく。露木さんに寄木細工の作り方を教わり、実際に作ってみる中で、より寄木細工への愛着が形成されていくだろう。さらに、職人との出会いを通じて、子どもたちが箱根町の特色や寄木細工の魅力をより深く知っていく。そして、それとともに寄木細工が抱えている課題『後継者不足』についても気づいていく。寄木細工だけでなく多くの伝統的な地場産業は、後継者不足が深刻な問題となっている。寄木細工職人も全盛期と比べると半分以上に減ってきている。この状況から子どもたちの解決したい問題が生み出されていくと考えている。

本時の子どもが解決したい問題は「どうすれば寄木細工を守っていけるのか」である。露木さんから聞いた話や自分たちが調べた寄木細工の現状をもとに、寄木細工の職人が減っていること、寄木全体の生産額が落ちていることなどの問題と子どもたちは出会っていく。子どもたちは自分たちが作ってみたり、学んできた経験があるからこそ、『このままではまずい。』『何とかできないか。』と考えていくだろう。そのような子どもたちの思いをもとに、寄木細工のことを考えることで、子どもたちが解決したい問題になっていくと考えている。

本時では、「寄木細工を守っていくためのより良い方法を考えることを通して、寄木細工の魅力や寄木職人の技術や願いに立ち返りながら、寄木細工の未来について考えを深める姿」をひびき合いの姿としていきたい。どの方法もいいねという発表会ではなく、より良い方法を検討していく中で、手作りの意義、職人の願いについて気づいていけるような焦点化の発問や資料を提示していく。その際、意見が変わることだけでなく、意見がより強化されることや迷うような姿も認めていきたい。また、自分の考えを表現することが苦手な子や理解するのに時間がかかる子のために、ペアやグループでの交流も積極的に実施していく。

単元目標
 自分たちの住んでいる神奈川県の特徴ある地域の一つである箱根町の人々の生活や文化について、意欲的に調べようとする。また、調べた地域の特徴に立ち返りながら、地域の伝統を守り、寄木細工を継承する職人の努力や寄木細工の未来について考えを深めることができる。

- ◆写真とデータ→人口1万3490人に対して、観光客2126万人 全国屈指の観光名所箱根。
- ・箱根町ってすごい。 ・最近、外国の人もたくさん来ているよね。 ・どうして、こんなに観光客が来るのかな？

・4年社会『わたしたちの県』

箱根町にどうしてこんなに観光客が来るのか？①②

・写真から実物へと段階的に本物に触れる機会をつくる。

- ・観光名所がいっぱいあるんだよ。→芦ノ湖、大涌谷、温泉、旧東海道の関所
- ・歴史も関係してくるね。 やっぱり自然がいっぱいな所かな。 東京から新幹線で来れるね。
- ・仙石高原でススキが見れるよ。 紅葉もきれいだったよ。 ・旅館も多いね。

・寄木細工も有名だよ。→教室にもある。作ったことあるよ、家にもあるよ。→本物を見てみたい。家から持って来ようよ。

寄木細工を家から持って来よう。③

・寄木の魅力に気づける資料『映像』『データ』を提示。

・寄木細工について意欲的に調べることができる。(関)

- ・うわあ、きれい。 ・色んな種類があるね。 ・木のおいがするよ。

- ・どうやって作っているのかな？ ・手作りじゃない？ ・機械も使っているでしょ。 ・作るのが大変そう
- ・作ったことあるよ。→作れるの？寄木細工、作ってみたいな。 ・その前に、寄木細工のこと調べてみたいな。
- ・どうして箱根で作られるようになったのかなあ？ ・どうやって作るかも知りたいな。

どうして寄木細工は作られるようになったのか？④⑤⑥⑦

寄木細工はどうやって作っているのか？⑥⑦④⑤

- ・寄木を作るための木がたくさんあったみたいだよ。 ・東海道の宿場町で、人がたくさん来たみたいだよ。→職人の人が集まりやすかったんだね。 ・観光客がお土産に買って帰ってみたい。 ・職人の人が技術を伝えてきたんだね。
- ・箱根だけでなく、小田原でも作られているみたいだよ。→箱根の名物なのに何でだろう？ ・職人の露木さんって三の丸の近くに住んでるみたいだよ。『わたしたちの小田原』に載ってたんだ。 ・職人の人(露木さん)の話を知りたいな。

- ・すごく手間がかかっているね。 ・動画を見たら、全部手作業だったよ。
- ・木の色を使っているんだね。 ・木にもたくさんの種類があるんだね。
- ・職人になるまですごく時間がかかりそう。
- ・本当に作っている様子を見てみたいな。 ・やっぱり作ってみたいな。

寄木細工を作ったり、職人の人の話を聞いたりしてみよう⑧⑨

・寄木細工の魅力と現状を話して頂く。

- ・一人前の職人になるのに10年かかるなんてすごく大変。 ・こんな難しいとは思わなかった。
- ・全部手作業だから時間がかかったね。 ・お土産で買って帰る人もたくさんいたね。 ・すごい技術がいるんだね。
- ・本物を見ると、やっぱりすごくきれいだったわかるね。 小田原でもお土産として売ってるんだね。
- ・~~寄木細工って高級品なんだね。~~ ・自分たちで作ってみて、すごく楽しかった。 ・職人が減ってきているんだあ。
- ◆寄木細工の職人が減少しているグラフを提示
- ・寄木細工の職人ってこんなに減ってるの？ 寄木細工だけでなく、他の伝統工芸品も減ってるんだあ。
- 小田原漆器も同じ状況なの！ ・どうして、寄木細工の職人にならうとしないのかな？ 大変だからかな？

・寄木細工の特徴や職人の苦労や努力について知ることができる。(知)

どうして、寄木細工の職人にならないのか？ ⑩⑪

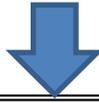
時間	お金	魅力	知られていない
<ul style="list-style-type: none"> ・一人前の職人になるまで時間がかかるから。 ・大変な作業を長い時間やろうとは思わないから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あまり仕事をしてもうからない。 ・お金がもうからないので、続けることができない。 ・買う人が少ないのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・寄木細工の職人により魅力的な職業がたくさんある。 ・伝統的な職人への魅力がなくなってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・寄木細工がどうやって作られているとか知られていない。 ・寄木細工の職人について、みんなが知らないから。

・寄木細工を守っていく方法について考えることができる。(思)

- ・今のままじゃ、いつかなくなってしまうんじゃない。 →小田原漆器とかでも同じ状況があるみたい
- ・でも、仕方ないことじゃない。 →だめだよ。なくなったらもったいないよ。
- ・箱根町の魅力がなくなっちゃうよ。 ・でも、ぼくはなれないかも。
- ・箱根の魅力がなくなったら、小田原にだって来る人減っちゃうよ。
- ・伝統的な寄木細工を伝える工夫があると思う。 ・寄木細工をなくしたくないな。
- ・どうしたら、寄木細工を守っていけるのかな？

・寄木細工の魅力がなくなると、小田原にとっても困ることや小田原の文化でもあることが分かる資料を提示。

・寄木細工の販売額の変化などの資料を提示し、より課題意識を持てるようにする。



どうすれば、寄木細工を守っていられるのか？ ⑫、⑬、⑭本時

寄木作り体験教室を子ども向けにする。	寄木細工のことをネットや動画で伝える。	魅力的な新しい寄木細工を作る。	寄木細工を買ってもらう工夫をする。	その他
<p>○子どもたちに知ってもらうことで、寄木の魅力がもっと広がると思う。</p> <p>○学校に来てもらって体験教室とかをやってもらえばいいかも。</p> <p>△子どもに伝えても大人になるまで時間がかかるから効果がすぐに出ない。</p> <p>△学校をまわってばかりいたら、仕事にならないよ。</p>	<p>○世界中の人に寄木細工の魅力を伝えていくことができれば、魅力ある仕事だと伝わっていくんじゃない。</p> <p><u>○寄木細工ユーチューバーが出てきたら、魅力伝えられるよ。</u></p> <p>△世界の人よりも日本国内の人に知ってもらう取り組みが大事。</p> <p>△<u>映像よりも本物の方がすごさが伝わるんじゃない。</u> 僕らも本物見た方が感動したよ。</p>	<p>○寄木細工の伝統的なものに新しい工夫をすることで、注目してもらえるよ。→寄木トロフィー、白い寄木細工</p> <p>○若い人向けの寄木細工の作品を考える。</p> <p>→寄木のスマートフォンカバー</p> <p>△新しいものよりも、今ある寄木細工の魅力が伝われば、作ってみたい人は増えると思う。</p>	<p>○買う人が増えれば、創る人も働きやすくなると思う。</p> <p><u>○値段をもっと安くすればみんな買いやすいんじゃない。</u></p> <p>△寄木細工を買ってもらう工夫も大切だけど、職人が増えなければ、作ることが追い付かなくなる。</p> <p><u>△値段を下げたら、手作りの意味がないよ。</u></p>	<p>○材料も調達しづらくなっているから、木を植林すると良い。</p> <p>○技術を伝える講習会を職人同士でやっていけばどうかな。</p> <p><u>○伝統的な職人の技を継承する学校を作ったらいい。</u></p> <p>△木を植えてもすぐには効果が出ないよ。</p> <p>△学校を作れるだけの費用がないよ。</p>

〈学習感想〉

- ・伝統的な職人の技術を伝えていくために、もっと多くの人に寄木細工の魅力を伝えたら良いと思った。
- ・職人を増やす工夫と寄木細工が買ってもらえる工夫、どちらも必要だと感じた。
- ・まずは、寄木細工を買ってもらっただけじゃなくて、どうやって作っているのかも知ってもらいたいな。
- ・どの方法も大切だけれど、ぼくらにも協力できることはないかなと思った。→いいね。何かやってみたい。
- ・せっかく勉強したから、寄木細工の魅力を何かまとめて伝えたい。
- ・子どもたちに伝えることだったら、ぼくたちにもできるかもしれない。→寄木細工の魅力を伝えたいな。どうやったらいい？

寄木細工の魅力を学校の人たちにどうやったら伝えられるかな？ ⑮⑯⑰⑱

- ・寄木細工の新聞を書こう。 ・寄木細工のノートまとめをして、それを貼ろう。
- ・寄木細工の魅力を伝える CM を作ってユーチューブで流そう。 ・寄木細工の本を作ろう。

※残り 6 時間で単元としては、他地域の事例も扱い県の特徴をつかむ授業を実施する。(三浦市、相模原市、横浜市)

本時について

(1) 本時目標 どうすれば寄木細工を守っていけるか話し合う活動を通して、寄木細工の職人の技術や願いに立ち返りながら、寄木細工の未来について考えを深めることができる。

(2) 本時展開

主な学習活動	主な支援・留意点 ◆評価【観点】
<p>どうすれば寄木細工を守っていけるのか？</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>◆伝える工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○寄木体験教室 ○寄木祭り ○ポスター、パンフレット、展覧会 ○夏休みのコンクール ○ユーチューブ ○ネットやインスタ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>◆売り方の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○何かとコラボ →タピオカジュースのコースター ○売る場所→全国・世界 ○<u>値段をもっと安くすれば買いやすい。</u> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>◆働き方の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○技術を伝える →講習会。 ○<u>職人の学校を作る。</u>→簡単に職人。修行の年数を短く。 ○<u>機械化する。</u> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>◆新しい寄木細工を作る工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新しい寄木細工。 ゲームのケース、メガネケース、携帯ケース、テレビ →若い人も興味を持つ。 ○身近なものを作る。 鉛筆、定規、コップ →みんなが使いやすい。 </div> </div> <p>寄木細工を守っていくためにはどの方法が良いか？</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>○体験だと良さが分かる。 △体験教室→もうからない。 △映像はすごさが伝わらない。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>△日本国内の人にもっと知ってもらいたい。 <u>△値段を下げたら、手作りじゃできない。</u></p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><u>△機械でやったら手づくりの良さなくなる。</u></p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>△もう作られているものもありそう。 △身近なものには高すぎて使えない。</p> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>手づくりだから意味がある。</p> <p>小田原・箱根の特別なもの。</p> <p>職人さんの気持ちを大切にしたい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆職人さんの気持ち</p> <p>① 良いものを作りたい。 (手づくりの良さ・木の良さ)</p> <p>② お客さんに喜んでほしい。</p> </div> <p>高くても良いものなら買ってくれる。</p> <p>手づくりだから、伝統芸品になった。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>どんなことを大切にして、寄木細工を守っていくのか？</p> </div> </div>	<p>★前時に守っていくための方法についての発表は済ませておき、話し合いの場面から本時は入る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ児童同士の話し合いを促し、板書に意見の違いを分かりやすく位置付ける。 ・クラス全体での話し合いだけでなく、ペアやグループでの話し合いの時間を取り、全体で発言できない児童にも発言の機会を与える。 ・それぞれの解決方法への賛成や質問・反対意見を言う中で、児童の意見のずれを取り上げる。 <p>★焦点化のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄木細工を守っていくためにはどの方法が良いか？ ・値段をもっと安くすれば良いのか？ ・機械に作ってもらえるのは良いのか？ ・寄木細工がたくさん売れるようになれば問題は解決するのか？ ・露木さんの話「①良いものを作りたい。(手づくりや木の良さ) ②お客さんに喜んでほしい。」この言葉から考えると、どの方法が良いのか？ ・どんなことを大切にして寄木細工を守っていくのか？ <p>◆寄木細工の職人の技術や願いに立ち返りながら、寄木細工の未来について考えを深めることができる。【思考・判断・表現】</p>